

後藤 武薫 議員



一括質問方式

- ① 市政全般
- ② 平成30年7月豪雨災害関係
- ③ 農業問題
- ④ 地産地消と学校給食

市政全般について

問

二宮市長は市長選でさまざまな公約を掲げ見事当選されたが、7月豪雨により掲げられた公約の実行は後回しとなった。通常予算に加え、復旧・復興、さらには公約のためにも当然予算が必要となるが、平成31年度当初予算の編成方針はどのようなことに重点を置いて編成されたのか。

答

平成31年度当初予算については、昨年の豪雨災害からの復旧・復興を念頭に置き、財政の健全化に配慮しながら私の基本理念である

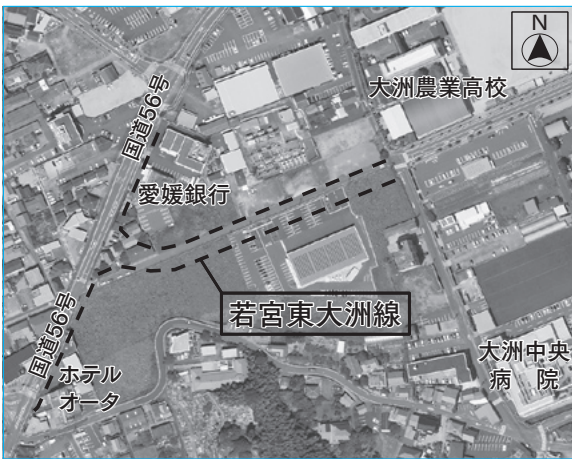
「人・自然・文化がきらめくまちづくり」のもと、5つの公約実現に向けた予算としています。

具体的には、子育て支援対策として、小・中学生の通院医療費は第1子、第2子にも月額3,000円を超える額を助成し、全ての小・中学生を対象に歯科医療費を全額助成することとしています。

産業振興施策としては、町家改修等の事業に補助し、観光客など交流人口の拡大により地域経済への波及効果を期待しています。

社会基盤の整備としては、若宮東大洲線について、道路幅員の拡幅や歩道を整備する街路整備事業の20

整備される若宮東大洲線



21年度の完成を目指し道路改良工事と用地購入費を計上しています。その他教育の振興としては、長浜小学校屋内運動場の実施設計費や大洲北中学校、新谷中学校、長浜中学校の施設改修費を計上しています。

農業問題について

問

本市では、農業従事者の高齢化が進み、農業後継者も不足している。さらに中山間地域では、有害鳥獣等の被害により生産意欲が低下し、耕作放棄地や遊休農地が増え続けているが、本市の農業はどうあるべきと考えているのか。

答

市内には規模や作物が異なる多様な農業形態があることから、それぞれの振興施策は、引き続き生産者団体や関係機関と連携して推進するとともに、次代を担う人材の確保・支援を行いながら、足腰の強い農業づくりに取り組んでいきたいと考えています。

さらに、消費者ニーズに答えられる生産活動への誘導や6次産業化への取り組みを強化し、ロボットや情報通信技術を活用するスマート農業の潜在能力を模索しなければならな

いとと考えています。また、オーガニック市場に対応す

る有機農業へのチャレンジの可能性や農産物をめぐるより効率的な物流のあり方などの研究を行い、農業の抱える構造的な課題解消策と振興施策をタイミング良く打ち出したいと考えています。

地産地消と学校給食について

問

学校給食は、新居浜市と西条市が学校給食費の20円値上げを発表されたが、主食の価格高騰は本市でも同じではないかと思う。

本年10月には消費税の増税も予定されているが、学校給食費の値上げ等の予定はないのか。また、食材費の高騰などに対してはどのように対応されているのか。

答

本市で給食費を改定した平成26年度からの物価上昇の対応については、食材の大量仕入れとメニューの工夫により、安くて栄養のある食材を仕入れるよう努めています。また、消費税の増税についても、給食の食材には軽減税率が適用されるため、しばらくは現在の給食費で賄えるものと考えています。

なお、TPPやEPAの発効などにより物価の変動が今後どう影響するかを見極める必要があるものと考えています。